

きもつき119

「無防備な心に火災がかくれんぼ」

平成27年秋季火災予防運動

11月9日～15日まで

祝 中央消防署訓練施設竣工式

はしご車による救出訓練

祝 中央消防署訓練施設竣工式

救助訓練披露

テープカットの様子

平成27年1月19日 中央消防署訓練施設
竣工式が行われました

消防音楽隊による演奏

平成27年10月

第 87 号

管内の人口

144,420人

平成27年7月31日（現在）

男

68,611

女

75,809

世帯数

69,799



ホームページの
QRコードを準備しました

編集・発行 大隅肝属地区消防組合 TEL 0994-43-1188

「きもつきしょうぼう」入力でクリック HP(<http://www.fd-kimotsuki.jp/>)

本部庁舎が移転しました!

消防長室、総務課、予防課、警防課が移転しました。



〒893-0015 鹿屋市新川町800番地

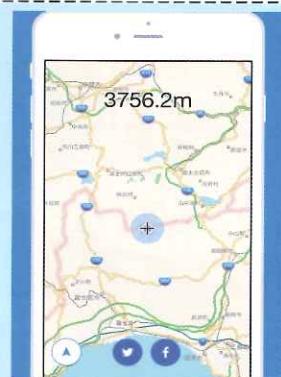
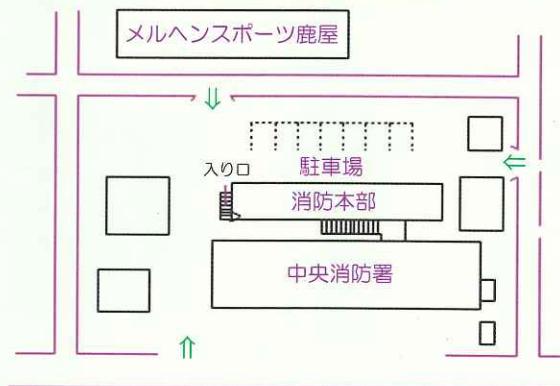
総務課…電話番号 0994-41-7182

予防課…電話番号 0994-41-7183

警防課…電話番号 0994-41-7184

消防本部新庁舎は平成二十六年十一月に完成。一階は本部車両庫として使用し、二階を本部事務所として使用しています。

以前の敷地と変更はありませんが、消防本部（消防長室、総務課、予防課、警防課）にご来庁の際は、本部事務所の位置にご注意くださいますようよろしくお願いします。なお、消防本部の住所や各課への問い合わせ番号は上記のとおり変更はありません。



大地震が発生した際に、津波や洪水による冠水の危険を適切に判断できるようになっています。

また、携帯電話のアプリで海拔表示を確認できます。

東日本大震災の津波被害を踏まえ、道路施設等に海拔情報を表示して情報提供する取り組みが行われています。

海拔表示アドバイス



すばやく消防車や救急車が到着できるように、GPS機能を有効にするように、ご協力をお願いいたします。

GPS機能がオフになつていると、正確な位置が表示されません。

119番通報時に、

GPSを有効に!



平成27年秋季火災予防運動の実施

平成27年11月9日(月)から11月15日(日)まで
『平成27年秋季全国火災予防運動』が実施されます。



これから寒くなり、暖房器具等の火気を使う機会も多くなってきますので、家族一人ひとりの「慣れ」や「油断」から、火災をおこさぬよう防火の重要性を十分に自覚し、次の「いのちを守る7つのポイント」を参考に普段の生活の中で火災予防を実践して行くことが大切です。

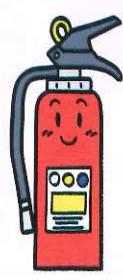
いのちを守る7つのポイント！



逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。



ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。



火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。



お年寄りや体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



寝たばこは、絶対やめる。



寝具や衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。



ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

- 4 電磁調理器（IH）こんろも絶対に安全とはかぎりません**
- ※これからカセットこんろを使用する機会が多くなると思います。取扱いには十分注意してください。
- 誤った使い方や対応機器以外の調理器具を使うと火災が起こるおそれがあります。

- 3 壁やカーテン等との間は十分な距離をとる**
- こんろ周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

- 2 こんろやその周りはいつもきれいにしておく**
- 油汚れをそのままにしておくと、こんろの火が燃え移る危険性があります。

- 1 調理中は、その場を離れない**
- もし、その場を離れるときは必ず火を消してください。

全国的にこんろに起因する建物火災は、毎年火災原因の上位にあげられます。我が管内でも平成二十六年のころが原因となつた火災は7件発生しており、出火原因の第1位のたき火（8件）に次いで第2位となっています。こんろ火災を防ぐために次のことに注意してください。

こんろ火災に御注意！

● 救命入門コース ●

平成二十三年から新たに
「救命入門コース」
が追加されました。



写真は高山小学校受講風景です！



小学生でも参加できます！

● 応急手当を受講したい方は
最寄りの消防署へ！ ●



救命入門コースとは、救命に対する知識をより早い段階から身に着け、普及が進んできたAED（自動体外式除細動器）を自信を持つて使用できるようにすることなどが目的となっています。

Arm(腕の麻痺)

△手のひらを上に向けて、水平に両腕を上げてその状態を維持してもらいます。麻痺があると、片腕が上がらないことがあります。

Face(顔の麻痺)

△歯を見せるようにして笑顔を作つてもらいます。麻痺があると、顔の片側が下がったり、ゆがみがみられたりします。

脳卒中チェック「FAST」



鹿児島県の脳卒中死亡率は全国平均の1・4倍。本人は、症状に気付かなかつたり、とりあえず様子をみてみようと病院へ行くことをためらいがちです。

家族などの周囲の人気が、脳卒中による症状にいち早く気付き、病院への受診や救急車手配をすることが、救命率を高め、後遺症を軽くします。

発症してすぐであれば、脳の血管に詰まつた血のかたまりを溶かす薬を使える場合があります。

付かなかつたり、とりあえづ様子をみてみようと病院へ行くことをためらいがちです。

△簡単な言葉をいつもどおり話せるか確認してください。麻痺があると、言葉が出てこなかつたり、ろれつが回らなかつたりします。

Time(発症時刻)

△前の3つのうちどれか1つでも該当する症状があれば、その症状が出た時刻を確認してください。（症状が出た時刻がはっきりわからなければ、最後に元気な姿を見た時刻でも構いません。）すぐに119番通報をして救急車を手配してください。

● 脳卒中症状をチェックしましょう ●

『住宅用火災警報器』のお手入れしていませんか?



◆設置がまだお済みでないご家庭は、設置をしてください。

◆小さな火でも、発見が遅ると、火災になり、大切な命と財産を失うことになります。

は、火災の発生をいち早くキャッチして住人に知らせます。

住宅用火災警報器

詳しく述べて詳しくは購入した店舗等にお問合せください。詳しくは購入した店舗等にお問合せください。

機種によっては、電池の寿命が迫つたり、既に電池が切れているかもしません。

設置をしてから、年数が経っていますか？



中央消防署 德重消防士

『住宅用火災警報器』の取り付け場所は？

設置上の注意点（天井・壁面の取付位置）



肝属消防管内で、集合住宅の住人が住宅用火災警報器の警報音に気付き、屋外に出て確認したところを発見し、119番通報。鍋の空焚きのみで、火災にならずに済みました。

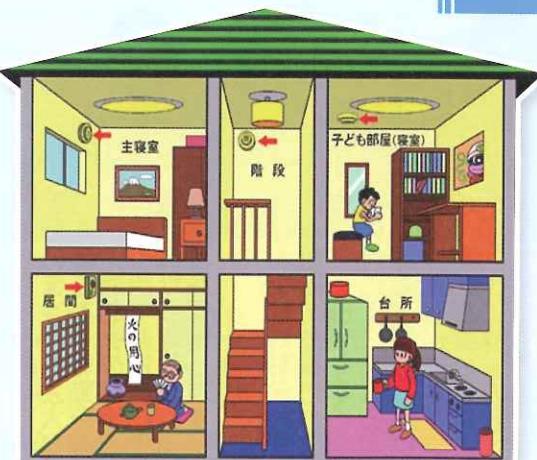
(身近なところで役に立っています)

奏功事例



就寝する部屋や階段の部分の上部には、煙式です。
(義務です。)

台所には熱式です。
(義務ではありません。)



■鹿児島県消防救助技術指導会■



平成二十七年五月二十九日、鹿児島県消防学校にて消防救助技術指導会が開催されました。天候にも恵まれ当消防本部からも三十名の選手が出場しました。競技途中に口永良部島の爆発的噴火が発生し、今後の動向に備え競技中止となりました。

結果については競技終了をしていた種目（ロープブリッジ渡過、障害突破、ロープ応用登はん）については上位入賞者、他の種目（はしご登はん、引揚救助、ぼくじ救出、ロープブリッジ救出）については選考会にて、全国大会及び九州大会へ派遣が決定となりました。

当消防本部は、中央消防署の壱崎消防士がロープブリッジ渡過で一位の成績となり神戸市で開催された全国大会に出場しました。

◇壱崎消防士のコメント◇
ロープブリッジ渡過を始めて2年目になります。
1年目では結果が出ず悔しい思いをし訓練に励み、また多くの方々の支えがあり、「全国大会」の切符を手にすることができました。

全国大会は、全国の出場隊員のレベルの高さに驚かされ、より一層日々の訓練に励まなければと思いました。

老田啓志
(23歳)

鹿屋市
田崎町出身



牧口晃大
(21歳)

肝属郡
南大隅町出身



富尾龍平
(21歳)

肝属郡
錦江町出身

私は消防士になれたことは、家族や友人、地域の方々の支えがあったからです。現場では、先輩の方の知識や技術を全て吸収し、一日でも早く住民の方々に信頼される消防士になりたいと思います。

日々訓練を重ね、技術や知識を向上させ先輩方に努力し、心身共に屈強な消防士になれるよう精進します。目の前の事を確実にこなし、理想の消防士を目指し、安心安全なようになりたいです。

今年度、大隅肝属地区消防組合に七人の新人消防士が仲間入りしました。三人は消防学校へ入校中で、四人は六ヶ月間の消防学校での教育を修了し毎日現場で頑張っています。
(年齢については採用時年齢)

新消防職員紹介

川東樹
(19歳)

鹿屋市
笠之原町出身



中村春葵
(19歳)

鹿屋市
今坂町出身



徳重祐樹
(19歳)

鹿屋市
西原出身



原園翔
(18歳)

鹿屋市
野里町出身

消防士、社会人としてまだまだ未熟なので先輩方がから知識・技術を少し多く学んで早く第一進線で活躍できるようにいきたいと思いつつあります。

常に初心を忘れず、何事にも高い意識をもって暮らせるよう消防士としてまちづくりに貢献していきます。そのため知識、技術の習得に努め、何事にも全力で頑張ります。

夢が叶った現状に満足することなく、常に向上心を高く持ち、勉強や訓練に日々全力で取り組み、住民の方々はもちろん、職場の先輩からも信頼されるようにこれから頑張ります。